

石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

第28巻 第1号



市ノ瀬ビジターセンター

市ノ瀬ビジターセンターは、白山国立公園を訪れた方々に、白山の自然や文化を理解していただくための展示・解説や情報提供を行う目的で、環境庁が3億8千万円をかけて整備し、平成12年6月から供用を開始しました。

白山登山者の登山基地として、また、白山の自然への興味を抱いてもらう学習的要素を合わせ持った施設となっています。登山道や山小屋をはじめ、山頂部の天気の状態などが、ひと目でわかる情報掲示板のほか、白山の自然情報を知ることができる情報検索装置を備え、白山の魅力を発信する基地となっています。

また、市ノ瀬ビジターセンターの周辺には、自然を直接体験できるよう自然観察路が整備されています。自然観察路ではボランティアの協力も得ながらミニ自然観察会であるガイドウォークを実施（土曜・日曜・祝日）しており、自然を楽しみながら新しい発見ができるようになっています。

（柳田 亨）

「いしかわ自然学校」のモデル事業を開始

美馬 秀夫

石川県では、今年度、「いしかわ自然学校」のモデル事業を開始しました。パンフレットやインターネットにより広く参加者を募集し、順次実施中です。ぜひ、ふるってご参加下さい。

「いしかわ自然学校」とは？



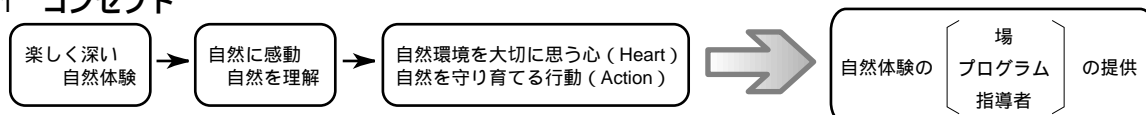
「いしかわ自然学校」のパンフレット

「いしかわ自然学校」の概要を、下に示しました。一般的に、自然学校とは、自然体験の場・プログラム・指導者を提供するシステムのことをいいます。

石川県には魅力的な自然体験のフィールドがたくさんあります。多くの拠点となる施設もあります。熱意を持った人もたくさんいらっしゃいます。これらをうまく組み合わせるものとして「いしかわ自然学校」というシステムを作り出し、様々な主体が魅力的な自然体験プログラムを展開していくとするものです。そして、石川の自然

いしかわ自然学校

1 コンセプト

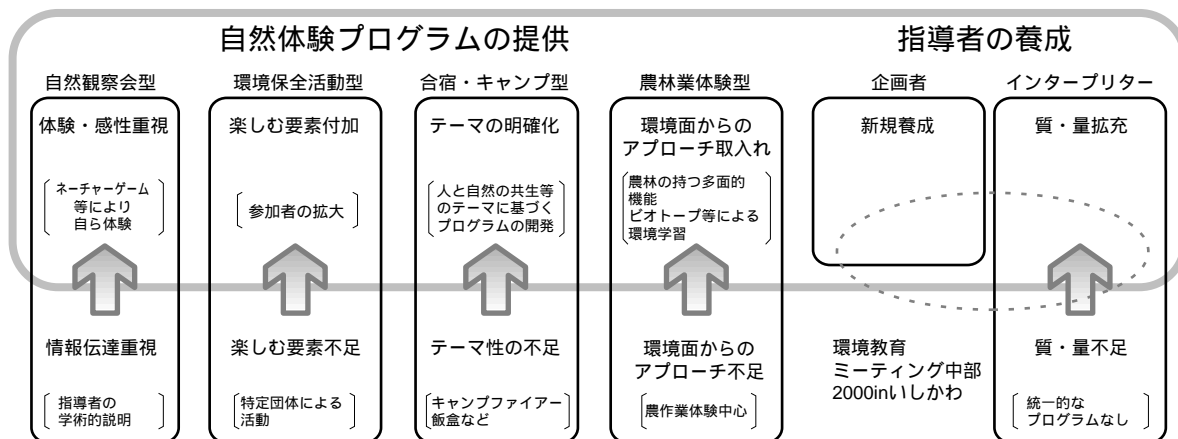


2 対象

対象者：子供を中心に、親子、一般等を含めて実施

対象場所：県下一円の自然環境フィールド、既存施設等の活用

3 事業概要



4 運営体制

行政、自然・地域団体、民間事業者等が連携したパートナーシップ・ネットワーク型の自然学校

5 H12年度計画

- ・モデル事業の実施（海や山でのエコロジーキャンプ、夏休みのチャレンジウィーク体験活動、里山学校、森と田んぼの学校 等）
- ・指導者の養成（インタープリター・企画者養成セミナー、環境教育ミーティング中部2000 in いしかわ 等）
- ・本格実施に向けたプログラム、運営体制の検討 等

ファンを増やし、自然を大切に考える人がいっぱいの石川県にしていこうという狙いをもったソフト事業なのです。どこかに学校という建物を新たに作るわけではありません。

対象は子供から一般まで、場所は県下各地で、様々な自然体験プログラムを実施していきます。展開していくプログラムは、狙いや目的を明確に意識して、知識を教えるだけでなく、実際の体験を通して、楽しみながら、感性を刺激し、環境への気づきを促すものにしていきたいと考えています。

運営体制としては、行政だけでなく、自然関係団体や地域団体、民間事業者などが連携し、ネットワークを組んで、地域の自然や文化の特色を活かした多彩なプログラムを実施していきます。県レベルでは、全国初の取り組みとなるものです。

平成12年度には、今後の運営体制等の検討も行い、モデル事業の成果を活かして、平成13年度以降の本格実施につなげていきたいと考えています。

また、石川県は、平成12年2月に、「いしかわ子どもすくすくプラン」を策定し、「個性と体験、安心の子どものにづくり」を推進していくこととしましたが、その中で、自然体験の推進を重要な柱の一つと位置づけています。「いしかわ自然学校」はその中核を担う事業としても、力を入れていくものです。

平成12年度のモデル事業と指導者養成

平成12年度の「いしかわ自然学校」の事業一覧を、表に示しました。これらの詳しい内容は、石川県のホームページでもご覧いただけます。アドレスは<http://www.pref.ishikawa.jp/shizengakkou>です。ぜひ一度ご覧になって下さい。

平成12年度「いしかわ自然学校」事業一覧

	事業名等(場所)	時期・期間等	概要	募集対象者・人員
モデル事業	いしかわチャレンジウィーク 7コース	7月21日～27日	主に子どもを対象とした様々な自然体験等	計 920
	・白山と手取川の大冒険(白山青年の家)	21～27日(6泊7日)	キャンプ、溪流下り、白山登山、サイクリング等	小学～高校 80
	・わくわくランド白山ろく(白山ろく少年自然の家)	A:21～23日/B:24～27日	キャンプ、登山、鍾乳洞探険、ブナ林散策等	小学生 300
	・暮石ふれあい塾(鹿島少年自然の家)	A:21～23日/B:24～27日	キャンプ、森の家作り、登山、風力発電模型作等	小学生 240
	・とびだせ学校!イルカになろうよ(能登少年自然の家)	A:21～23日/B:24～27日	キャンプ、スノーケリング、大型カヌー、魚釣り等	小学生 300
	いしかわ森と田んぼの学校(県内小学校40校選定)	(年間)	農作業体験、ピオトープ作り、森の体験等	小学生等 計 約2,000
	いしかわエコロジーキャンプ 3コース		明確なテーマをもった少人数で深い自然体験	計60
	・能登エコロジーキャンプ(内浦町九十九湾等)	8月18～20日(2泊3日)	スノーケリングによる生きもの観察や磯遊び	親子 20
	・白山ろくエコロジーキャンプ 1(尾口村一里野)	9月15～17日(2泊3日)	木の実と山村文化/ブナ林散策、とちもち作り等	親子 20
	・白山ろくエコロジーキャンプ 2(尾口村一里野)	3月2～4日(2泊3日)	野生動物調査体験/かんじきハイクと動物調査体験等	一般 20
	エコツアー 1コース			
	・白山ガイドトレッキング(白山中宮道)	8月1～5日(4泊5日)	白山の豊かな自然を満喫するロングコースガイド登山	一般 15
環境保全活動				
・夕日寺里山学校(夕日寺健民自然園)	6月11日、10月29日	楽しみながら行う雑木林保全のための下刈り、植樹等	親子 計 100	
自然観察会等				
・自然解説員による自然観察会等(白山ほか)	4～11月	白山や県下各地での自然観察会等	親子 計 約3,600	
・白山ガイドトリップ(白峰、尾口、吉野谷)	5～2月(5回)	白山を深く知るための探訪・探険1日ガイドウォーク	各30 計 150	
・県民白山講座(野々市、白峰、金沢)	6～1月(5回)	白山の自然、文化に関する教養講座	各100 計 500	
			計 約7,400	
指導者養成事業等				
・インタープリター養成セミナー(白峰村)	6月15～18日(3泊4日)	自然学校に不可欠な指導者(インタープリター)養成	30	
・企画者養成セミナー(白峰村)	9月12～14日(2泊3日)	自然学校を企画・実施する者を対象とした養成講座	30	
・環境教育ミーティング中部2000 in いしかわ(白峰村)	11月10～12日(2泊3日)	指導者等のレベルアップとネットワークの構築	計 200	
・青少年野外活動リーダー養成セミナー(少年自然の家等)	6～7月(4施設各1泊2日)	チャレンジウィークに係るボランティア指導者養成	計 130	
・農林業体験コース支援ボランティア募集	随時	森と田んぼの学校に係る支援ボランティアの募集		



夕日寺里山学校。さあこれから雑木林の下刈り作業を開始

(1) モデル事業

子ども対象の事業では、チャレンジウィーク事業として、夏休みに各少年自然の家などで宿泊型の野外体験活動を実施しました。

親子向けの事業では、能登と白山ろくのエコロジーキャンプとして、地元公社等が主催して、スノーケリング、木の実や山村文化、動物観察や調査体験をテーマに、少人数でゲストと一緒に、じっくり自然と向き合おうというプログラムを実施します。

大人向けの事業としては、専門ガイドが同行する白山ガイド登山も実施しました。中宮道をガイドと一緒に歩き、白山の魅力を満喫するプログラムです。

その他、夕日寺健民自然園で雑木林の保全活動を行う里山学校や、学校単位での農林業体験型の森と田んぼの学校を実施します。また、白山自然保護センターやのと海洋ふれあいセンター、石川県自然解説員研究会が行う自然観察会型や講演会型のものも含まれています。

(2) 指導者養成

いしかわ自然学校を発展させていくには、指導者の充実が不可欠であり、最重要課題の一つだと考えています。そこで、インタープリター養成セミナーと企画者養成セミナーを実施します。この二つのセミナーは、環境教育に豊かな実績を有する(財)キープ協会とタイアップして実施します。

インタープリターとは、直訳すれば「通訳者」のことですが、自然と人間との橋渡し役を意味します。知識を教えるのではなく、体験をとおして、感性を刺激して、参加者自身の「気づき」を促す仕掛けのできる人のことをいいます。企画者セミナーは、ストーリー性を持ったプログラム作りやコーディネーターとしての考え方等を学ぶものです。

更に、「環境教育ミーティング中部2000 in いしかわ」も開催されます。中部地方の環境教育に関心を持つ人たちが交流し、ネットワークづくりをする機会になると期待されます。



インタープリター養成セミナー
自分たちで作った自然体験プログラムを発表

今後の展開

今後、運営体制などを検討し、平成13年度以降、行政や地域・自然団体、民間事業者など様々な主体がネットワークを組んで、更に多くのプログラムを実施し、魅力的な「いしかわ自然学校」として、育てていきたい、育てていただきたいと考えています。多くの方々のご意見・ご提言や、積極的な取り組みをお願いいたします。

<自然保護課>

金沢市にも現れたニホンザルの群れ(続)

上馬 康生

前号では、今までの記録から、一部推定も含め、群れの区別をして地図に示しました(図1)。今回は、各記録を標高や季節別にみとめることにします。また群れの今後についても考えてみます。

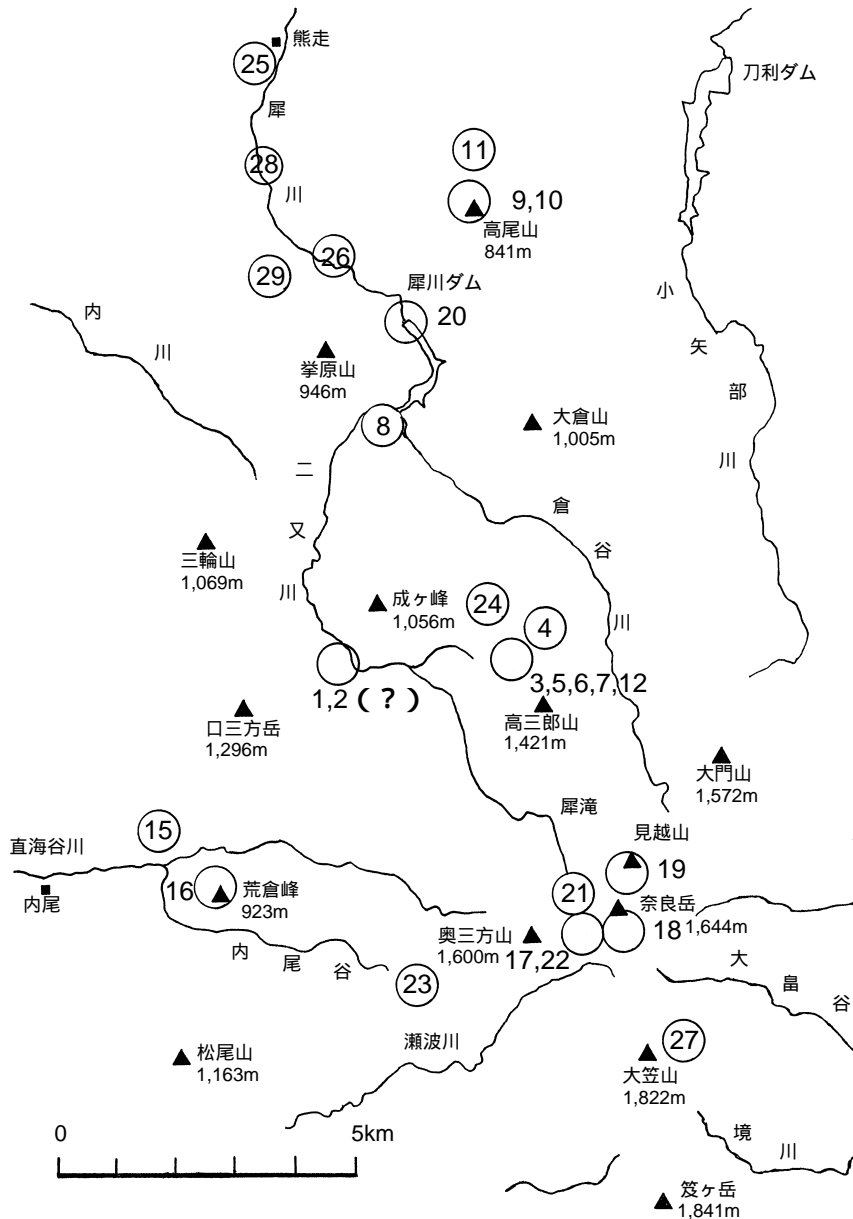


図1 犀川水系及び周辺のニホンザルの記録場所

季節と標高との関係

記録年月と場所(標高)が分かっている25例について、季節と標高の関係を示すと図2のようになります。それぞれ、群れであるか、単独ないし5頭以下または不明であるかの区別をしました。また犀川水系とそれ以外とを区別しました。一部の例には、群れの標高範囲で示しましたが、他の群れも実際には点ではなく標高差のある範囲にいると考えるべきです。この中には新しくない糞の記録などは除いてあります。

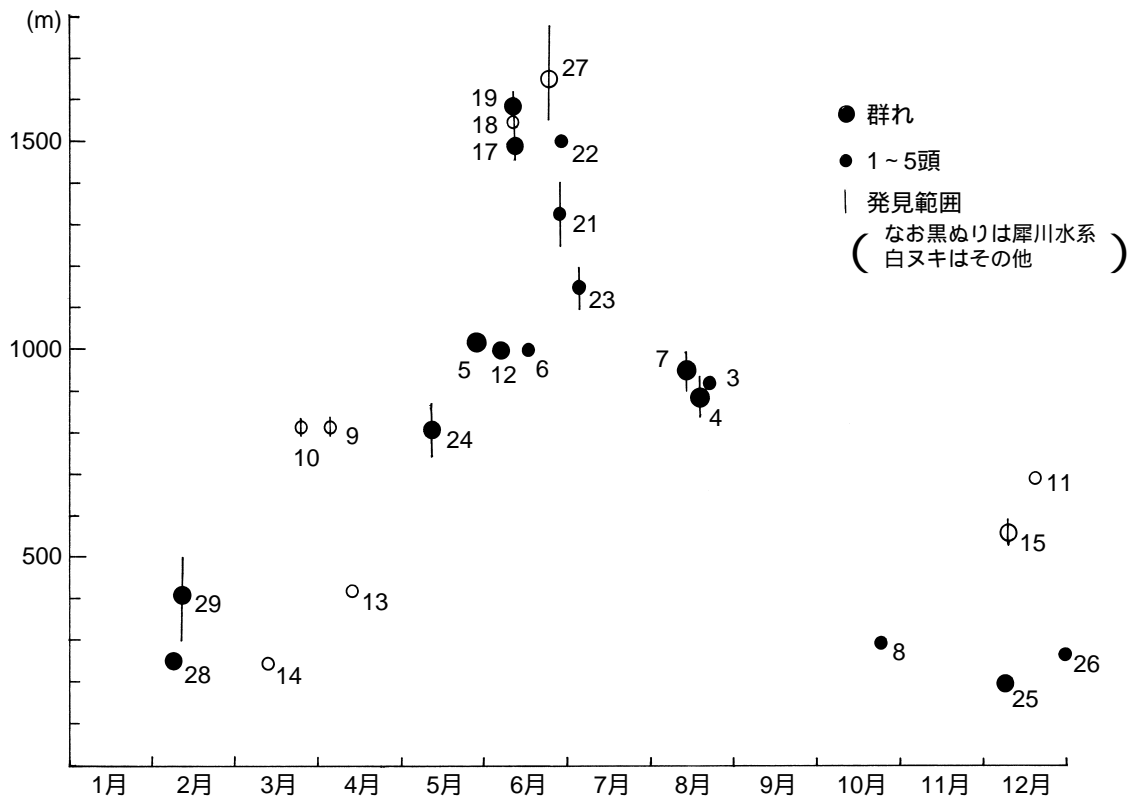


図2 犀川水系及び周辺の二ホンザル記録の季節と標高との関係

犀川水系でみると、夏期に高三郎山の標高800～1,000m付近（タカサブロウ群）と、二又川源流域の標高1,250～1,600m付近（ナラダケ群）に群れがいることが推定できます。また冬期には、犀川ダム下流の標高200～500mに群れがいることが分かります。他の水系では、口三方岳の標高550～600mに群れ、他に高尾山や医王山北部にも小群が見つっています。調査地域全域における、周年の定期的な調査ができていたわけではありませんので、十分な情報量とはいえませんが、犀川水系周辺では、秋期から春期には標高800m以下に、夏期には800m以上に生息していることが分かります。これまでに分かっている白山地域と同様のことが、犀川水系などの二ホンザルの群れについてもいえることが分かりました。

群れの増加

犀川の上流には、昭和30年代まで倉谷、二又、日尾など小規模な集落がありましたが、当時は付近に二ホンザルの群れの情報はありませんでした。しかし、大正の終わり頃までは、犀川ダム上流の倉谷で毎年サル騒ぎがあり、住民がサル退治にかり出され、倉谷川沿いの谷で群れを捕ったといわれています。その後、生き延びた少数の群れから、あるいは尾添川水系等から移動した小群が定着するなどして、少しずつ数を増やし、少なくとも昭和45年頃には、二又川の成ヶ峰から口三方岳付近に群れが存在するようになったと考えられます。その後、個体数の増加や、群れの分裂等で数を増やしていき、下流の方へ分布を広げたことが推定されます。

これからどうなる犀川水系の二ホンザル

最近の白山地域の二ホンザルの動向としては、個体数、群れとも、かなり急速に増加しつつあり、以前には夏期にはいなかった、低標高地の集落周辺にまで定着する群れが現れています。その原因としては、暖冬が続いていることによって、アカンボウや老齢個体の生き残り数が増加しているこ



高三郎山クラコシ尾根から口三方岳を望む。右側の斜面の上部にニホンザルの群れがいた。(2000.5.13)



近くに寄ってきたニホンザル(2000.5.13)

となどが考えられています。そして、畑や水田等に被害をおよぼし、問題化しています。犀川水系でも、源流域は自然環境や人為環境は白山地域と類似しており、熊走町の低標高地に出現し畑に被害を出したことなどを含めて考えるなら、この地域でも個体数、群れの数とも、昭和45年頃に比べると、はるかに増加しているとみるべきでしょう。そしてこれからも、山の木の実が不作の年には、集落近くに出現すると考えるべきだと思います。また被害発生や保護のことを考える上で、今後、全域にわたる分布調査が必要でしょう。そして、ニホンザルが出てきたときに、山へ追い払いをするなど、住民の側の対応も考えておかなければならない大事なことだと思います。

おわりに

この春、5月13日に再び高三郎山へ登ってきました。1996年に見つけた場所(24)と同じところで、新しい糞を見つけることができました。その後、4時間ほど付近を探していると、やは

りいました。すぐ近くの雪の上を走り去るものや、タムシバの木で花を盛んに食べるもの、またこちらが気になる様子で近くの茂みからうかがっているものなど、10頭は数えられました。しかし、木々は葉を広げており、見晴らしがよくなかったので、残念ながら群れの全体像はつかめませんでした。また、5月21日に、高三郎山の別のところで10頭あまりの群れに出会ったと、登山された堂森明義さんから連絡をいただきました。

最後になりましたが、今回明らかにできたのは、文献の他に多くの方から貴重な情報を教えていただいたおかげです。2と8は林正一さん、9~11は柴田文子さん、13は故池田善英さん、15は沖野仁さん、23は梅典雅さん、27は東野登志子さんからの情報です。ありがとうございました。特に東野さんには、大笠山の詳しい情報をいただき、そのおかげで、この地域のニホンザルの情報を整理しておかなければと、決心したのです。また今後、登山などで犀川上流地域の山へ入る方がおられましたら、ニホンザルがいることに気を付けていただき、情報を連絡してもらえれば幸いです。

<白山自然保護センター>

市ノ瀬ビジターセンター 白山国立公園センター オープン



白山国立公園センター テープカット



市ノ瀬ビジターセンター テープカット

市ノ瀬ビジターセンターと白山国立公園センターが平成12年6月28日、開館しました。これら2つの施設は、自然体験フィールドやその利用拠点などを整備する目的で、平成7年から11年度まで行われてきた自然公園核心地域総合整備事業（緑のダイヤモンド計画整備事業）の一環として整備されたものです。

“ 森の図書館 ” 市ノ瀬ビジターセンター



市ノ瀬ビジターセンターは、市ノ瀬登山センターがあった場所に、平成10、11年度にかけて環境庁が建設した鉄筋コンクリート造2階建て、面積504.95㎡の施設で、外観は山小屋風で周囲の自然にとけ込む雰囲気となっています。白山国立公園や市ノ瀬周辺の自然情報や白山登山のための情報提供を行うため、各種登山情報・自然情報案内板、自由に休憩できる休憩・展示コーナー、周辺の



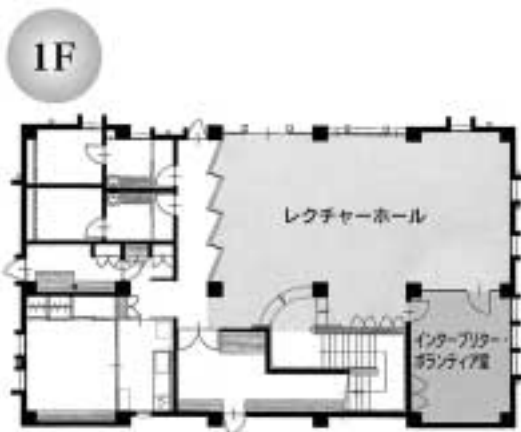
インフォメーションコーナー



休憩、展示コーナー



レクチャーホール



見どころや白山の自然について自由に学習できるパソコンを備えた検索カウンター、ハイビジョンならではの美しい映像で白山を紹介したハイビジョンコーナーなどが整備されています。

レクチャーホールには大型のハイビジョンプロジェクターが備え付けられ、自然観察会などでの解説の際に利用されます。また、市ノ瀬を中心に、自然解説などで活動していただくボランティアのためのインタープリター・ボランティア室も設けられています。

ビジターセンターの周囲には、これまであった自然観察路の延長、岩屋俣園地、根倉谷園地などがあわせて整備されました。岩屋俣園地の白山展望台からは白山の山頂部を望むことができます。六万山から尾根伝いに山頂へのびる白山禅定道（旧 越前禅定道）と、その奥には左から白山釈迦岳、大汝峰、御前峰と続く眺望が楽しめます。また、根倉谷園地は、白峰から市ノ瀬への途中、市ノ瀬発電所の近くにあり、5月上旬にみごろとなるミズバショウは、約3,000㎡の湿地に約1万株ほどあります。



白山展望台（岩屋俣谷園地）



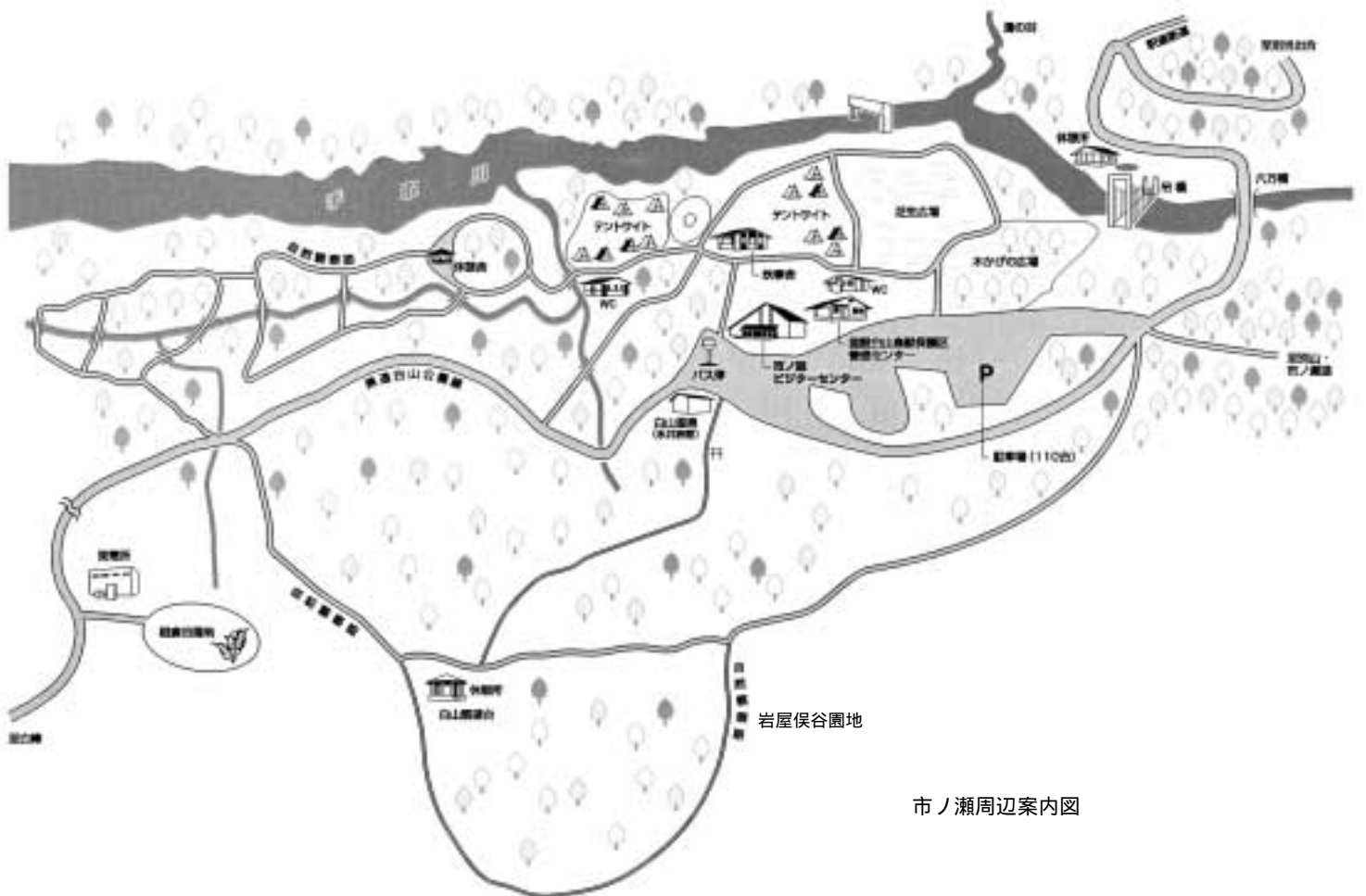
展望台からの白山



ミズバショウの群生（根倉谷園地）



自然観察路



市ノ瀬周辺案内図

“白山 - 自然と森の学校”の拠点 白山国立公園センター



白山国立公園センターは白山国立公園の玄関口にあたる白峰村の風嵐地区に、平成10、11年度にかけて石川県が建設した鉄筋コンクリート造2階建て、面積494.84㎡の施設で、外観は白峰村で見られるような建物と同様に仕上げられています。また、周辺で建設がすすめられている「ふるさと交流センター（白峰村）」や「白山砂防科学館（建設省）」と屋根付き歩廊で続くとともに屋根や外壁の仕上げを調和させ、3つの施設が一体的でまとまりのあるものになるよう考えられています。

ここでは、白山の自然・文化や国立公園利用のための情報提供を行うほか、白山に関する図書、映像ライブラリー、情報検索ソフトなどで、白山国立公園についての知識が深められるようになっています。また、レクチャーホールでは各種講演会、会議、写真展などが開催でき、9面マルチビジョンでの映像ソフトの上映も可能になっています。

石川県では、平成12年度より県内各地において「いしかわ自然学校」事業をすすめており、白山国立公園センターは白山麓における一つの拠点となります。



休憩談話コーナー



レクチャーホール

利用のご案内

市ノ瀬ビジターセンター

開館日：5月1日～11月5日（冬期閉館）

（積雪等によってかわります）

開館期間中は無休

：午前8時45分～午後5時

入館料：無料

交通のご案内

バス：北陸鉄道金沢駅から別当出合行き
市ノ瀬バス停下車（運行日注意）

自動車：金沢、福井から約2時間

市ノ瀬ビジターセンター周辺は白山国立公園内でもあり、動植物の採集、指定地以外での野営は禁じられています。また、ゴミ箱も用意していません。ゴミは必ず持ち帰って下さい。

白山国立公園センター

開館日：午前9時～午後5時

休館日：毎週木曜日（祝日の場合は翌日）

年未年始（12月29日～1月3日）

入館料：無料

交通のご案内

バス：北陸鉄道金沢駅から白峰行き 白峰車庫下車

自動車：金沢、福井から約1時間30分



白山を紹介するハイビジョン番組、CD-ROM

石川県は岐阜県と共同で、白山の自然を紹介し、その素晴らしさ、厳しさ、また、その保護の重要性を広く知ってもらうため、白山を紹介するハイビジョン番組、CD-ROMを製作しました。

両県は、これまで平成8、9年度に生態系多様性地域調査として白山の動植物などの調査を実施しました。そして今度は、白山の自然啓発・普及事業を共同で行ったのです。最近、ハイビジョンによる映像の撮影は珍しくなくなってきましたが、このような複数の都道府県が共同でハイビジョン番組を製作することは、珍しいようです。

ハイビジョン番組の製作は、内容の検討、撮影、編集に平成10、11年度の2年間をかけました。白山の山麓から山頂での撮影ばかりでなく、ヘリコプターによる空撮なども取り入れています。

完成したハイビジョン番組は、「白山の四季」(上映時間 約15分)と「夏に輝く小さな命 - 白山の高山植物 - 」(上映時間 約5分)の2つです。



「白山の四季」では、イヌワシがなわばりを主張する飛翔の様子、ニホンカモシカの子供が母親に乳をねだる様子、白山山頂からの御来光や雲海にうかぶ槍ヶ岳や穂高連峰、白水滝や姥ヶ滝などの滝、春から夏の新緑、秋の赤や黄色に色づく紅葉、そして木々が葉を落とし雪に覆われる冬へとその装いを変化させるブナ林の四季などを紹介しました。

一方、「夏に輝く小さな命 - 白山の高山植物 - 」では、白山の高山植物に注目し、ハクサンコザクラなど白山で見られる代表的な高山植物とその生育環境の違い、石川県の郷土の花 クロユリの生態について紹介したほか、白山が高山帯を有する山としては、日本では最も西に位置し、他の高山帯から遠く離れていることなどを紹介しています。

これらハイビジョンならではの美しい映像は、石川県では吉野谷村の中宮展示館、白峰村の白山国立公園センター、市ノ瀬ビジターセンターでのみ見ることが出来ます。また、岐阜県では、エコミュージアム関ヶ原などで見ることが出来ます。



CD-ROM「白山登山ガイド」

CD-ROMは「白山登山ガイド」として、石川県側の砂防新道、岐阜県側の平瀬道、山頂のお池めぐりコースなどを紹介したほか、白山の概要がわかるよう白山の地理、高山植物、生い立ち、白山麓の博物展示施設や温泉などについて、音声と写真、そして動画などで紹介しています。このCD-ROMは、石川県では、中宮展示館などでご覧いただけるようになっています。

また、ハイビジョン番組と同内容のビデオとCD-ROMは白山麓の町村、石川県内の中学校および県内の図書館などに配布し、広く利用していただけるようにしました。多くの方に利用していただければと思います。

田中 稔

白山ガイドトリップ「北縦走路を訪ねる」

7月にさしかかったというのに蛇谷に吹き渡る風は梅雨の中休みを思わせる軽やかさである。今年度の行事の一つ、白山ガイドトリップ「北縦走路を訪ねる」は7月2日に行われ、26名の参加者があった。白山スーパースーパー林道経由、三方岩岳、野谷荘司山トレッキングで出発9時のスケジュールは結構厳しかったが、登り口よりウラジロヨウラク、サラサドウダン、コヨウラク、アカモノ、ホツツジ、イワナシ、ハクサンシャクナゲなどのツツジ科の植物やゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、オオバキスミレ、ノウゴウイチゴ、マイヅルソウ、コシジオウレンの可憐な小花の競演が見られた。三方岩岳での一息では白山の主峰も姿を見せ、ホトトギス、カッコウ、ウソ、クロジ、コルリ、ウグイス等は、歓迎の鳴き声を聞かせてくれた。

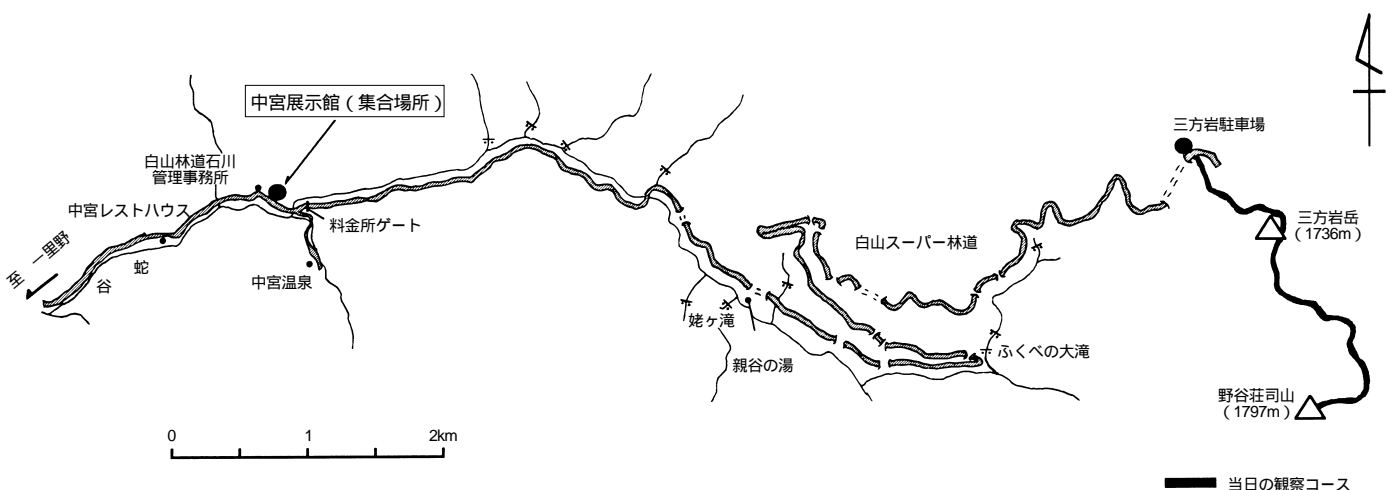
一昨年来、土砂崩れのため不通になっていた県道岩間線は6月16日より開通した。例年6月5日のスーパー林道全線開通も、今春の異常な残雪によって6月10日に変更された。白山の山頂も、今年は例年になく残雪が多い。しかし、まもなく白山の夏山も本番に入り、多くの登山者が山頂を目指し、やってくる。



白山ガイドトリップ「北縦走路を訪ねる」



三方岩岳



施設だより 市ノ瀬ビジターセンター

三原ゆかり・中村真一郎

市ノ瀬ガイドウォークとガイドボランティア

6月27日に、市ノ瀬ステーションから新築された市ノ瀬ビジターセンターへ事務所機能に移しました。業務内容や各種案内のしかたは昨年とほぼ変わりません。また、毎週末に実施していたガイドウォークは今年も引き続き行っています。



ボランティアによるガイドウォーク

ガイドウォークを行う目的は、市ノ瀬を訪れた皆さんが自然に親しみを持ち、市ノ瀬周辺の自然に愛着を持ってもらうということです。ビジターセンター周辺を様々な視点から、2時間ほど歩きます。自然観察入門編のやさしい内容で、ゲームや虫眼鏡や聴診器などの小道具を使ったり、楽しさも取り入れた内容にしています。大人から子供までを対象に、申込みがあれば一人からでも実施しています。

コースは昨年整備された遊歩道や展望台など、その時期の市ノ瀬周辺の見所をできるだけご案内しますが、もちろん参

加者の要望にも応えられるように、事前にどこへ行きたいか、何を期待してこられたかをおたずねしています。

今年からこのガイドウォークには、白山自然ガイドボランティアが加わり参加者をご案内しています。白山自然ガイドボランティアのメンバーは、石川県白山自然保護センター開催の養成講座を受講した方々を中心に、地元の自然や歴史に詳しい方、知識は無くとも自然に興味を持ち楽しく歩きたい方など、様々な思いで集まった方たちです。今年は33名のボランティアが、毎週交代で市ノ瀬に来られます。自然に興味を持ち、白山を愛する個性豊かな皆さんばかりなので、市ノ瀬での楽しみ方がより一層広がります。市ノ瀬での過ごし方は、自然観察などの型どおりの楽しみかた以外に「人に会いに行く」というのもおすすめです。

私たちスタッフやガイドボランティアは、参加者の皆さんの自然への興味の扉を開くお手伝いをしながら、一緒に歩く時間を共に楽しみたいと考えています。ガイドウォークは安らぎ、くつろぎ、探検、冒険、好奇心をキーワードに小さな心の旅を目指しています。

私たちとフィールドを一緒に歩いてみませんか？

<市ノ瀬ガイドウォーク>

参加対象：子供からおとなまで、どなたでも。

日 時：毎週土・日、祝日

集 合：市ノ瀬ビジターセンター（TEL 07619-8-2504）

申 込：当日申込み可、出発前までにビジターセンターカウンターまで。

出 発：午前10時 午後2時

*団体での申込みは前日までにあらかじめご連絡ください。

できるだけ歩きやすい服装でお願いします。

センターの動き（3月22日～8月10日）

- | | | | |
|---------|-----------------------------|-------|------------------------------------|
| 3.26 | ブナオ山観察舎自然観察会（ブナオ山観察舎周辺） | 6.17 | 県民白山講座
「白山夏山登山と高山植物のつどい」（野々市） |
| 4. 1～30 | ブナオ山観察舎 写真と絵画展
（ブナオ山観察舎） | 6.18 | ブナ下草刈ボランティア（中宮展示館） |
| 4.20 | 白山麓鳥獣害防止対策協議会（鳥越村役場） | 6.28 | 白山国立公園センター（白峰村風嵐） |
| 4.29 | 中宮展示館開館 | | 市ノ瀬ビジターセンター（同市ノ瀬） |
| 5. 5 | ブナオ山観察舎閉館 | | 開所式 |
| 5.18 | 白山自動車利用適正化連絡協議会（白峰村役場） | 7. 1 | 白山夏山開山祭 |
| | 石川県博物館協議会総会（金沢） | 7. 2 | 白山ガイドトリップ |
| 5.21 | 白山ガイドトリップ | | 「北縦走路を訪ねる」（吉野谷村） |
| | 「別当谷のツキノワグマを探す」（市ノ瀬） | 7.19～ | 白山登山ピーク時交通規制（市ノ瀬） |
| 5.28 | 中宮展示館展示室リニューアル開所式 | 8. 2 | ジャパントント下草刈り（白峰村西山） |
| | 吉野谷村グリーンデー（中宮展示館） | 8. 6 | 県民白山講座
「白山麓の出炉りと焼畑」（白山国立公園センター） |
| 6.14 | 白山国立公園関係自然公園指導員会議（本庁舎） | | |

編集後記

今号では、6月にオープンした市ノ瀬ビジターセンター、白山国立公園センターについて紹介しました。また、平成12年5月28日には、白山自然保護センター中宮展示館の展示室がリニューアルオープンしています。

これで中宮展示館は、平成8年2月の雪崩による被害から、ようやく完全に復旧することができました。新しい展示室について前号で紹介していますが、来館者が実際にふれ、体験することができる参加体験型の展示によって、白山の自然や白山麓の人々の暮らしについて知ることができるようになっていきます。

ぜひ、今年度相次いでオープンしたこれらの施設を訪れてみて下さい。多くの方のご来館をお待ちしています。

また、これらの施設では、今号で紹介した「いしかわ自然学校」の白山地域での活動拠点として利用され、様々なプログラムが展開されていくことになっています。こちらの参加もお待ちしています。

白山自然保護センターでは、白山の自然誌20「白山の両生類」を発刊しました。白山地域にすむ代表的なカエルやサンショウウオの仲間について紹介しています。中宮展示館や市ノ瀬ビジターセンターなどで配布しているほか、送料を負担していただければ（1部の場合140円）、郵送しますので、ご希望の方は、当センターまでお申し込み下さい。

（野上）



中宮展示館展示室 テープカット

目次

表紙 市ノ瀬ビジターセンター	柳田 亨 ...1
「いしかわ自然学校」のモデル事業を開始	美馬 秀夫 ...2
金沢市にも現れたニホンザルの群れ（続）	上馬 康生 ...5
市ノ瀬ビジターセンター・白山国立公園センター オープン8
白山を紹介するハイビジョン番組、CD-ROM13
施設だより（中宮展示館）	田中 稔...14
（市ノ瀬ビジターセンター）	三原ゆかり・中村真一郎...15

はくさん 第28巻 第1号（通巻115号）

発行日 2000年8月10日（年4回発行）
 編集発行 石川県白山自然保護センター
 920-2326 石川県石川郡吉野谷村木滑ヌ4
 TEL07619-5-5321 FAX07619-5-5323
 URL <http://www.pref.ishikawa.jp/recre/hakusan/haku.html>
 E-mail hakusan@pref.ishikawa.jp
 印刷所 株式会社 橋本確文堂